

山紫水明





第一四四号 目次

表 紙

令和四年度定例総会

令和三年度活動報告書

創立七十周年記念事業特集

委員会報告

近畿・中央報告

新人会員紹介

編集後記

24 22 17 15 6 4 3 1

令和四年度定例総会



令和四年七月六日(水)午後六時より京都東急ホテルに於いて、令和四年度定例総会が会員六十一名出席のもと、マスク着用の厳守やこまめなアルコール消毒の実施など感染症対策を徹底し開催された。

有持副会長より開会の辞が述べられ、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者に対して黙祷を捧げ、北川会長挨拶の後、賀茂御祖神社田中明仁会員が議長に選出され議事に入った。

先ず、第一号・令和三年度活動報告の件、第二号・令和三年度決算報告の件、第三号・監査報告の件が一括で審議され承認された。次に第四号・令和四年度活動方針(案)並びに活動計画(案)の件、第五号・令和四年度予算(案)の件が上程され、各委員長より活動計画(案)について説明し、一括で承認された。第六号・創立七十周年記念事業に関する件、第七号・積立金一部取り崩し(案)の件、第八号・創立七十周年記念事業特別会計予算(案)の件についても、一括で審議され異議なく承認された。

終わりにあたり、恒例により会歌をマスク着用のまま合唱され、畑中副会長より閉会の辞が述べられて、定例総会は滞りなく終了した。

定例総会に引き続いて、昨年一昨年、新型コロナウイルス感染防止の為に中止されていた懇親会が、三年ぶりに開催されることとなった。感染症対策により、お酒の注ぎ回り等はなく、各自テーブルにての交流ではあったが、

御来賓、協賛業者、OB会員・新OB会員の皆様と、現役会員六十一名、併せて百十三名が出席した。

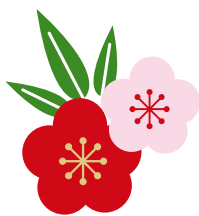
先ず、開会に先立ちヤチマタ基金の贈呈式が行われ、北川会長から京都府神社庁長 田中恆清様に目録が手渡され、当事業の成果が報告された。

次に有持副会長より開会の辞が述べられ、北川会長より挨拶が行われた。また会長による役員紹介、来賓紹介と続き、代表して京都府神社庁長 田中恆清様より御祝辞を頂戴した後、京都府氏子青年連合会会長 橋本浩和様の乾杯発声にて懇親会がスタートした。

懇親会では、新OB会員、新入会員の紹介にて計十一名の新人が自己紹介を行った。続いて親睦委員による余興が開催され、出席者全員の参加による逆ビンゴ大会を行い、最後まで数字の読み上げが無かった参加者に景品が贈呈された。

最後にOB会員より中野忠雄先輩による万歳三唱が行われ、閉会の辞を畑中副会長が述べ、懇親会は盛況の内に終了した。

(八坂神社 神尾 尚宏)



令和三年度 京都府神道青年会活動報告書

自 令和三年七月一日
至 令和四年八月三十日

年月日	内 容	人数	場 所
七月 三日	監査会開催	三名	護王神社
五日	氏子青年連合会年次大会	一名	賀茂御祖神社
五日	神道政治連盟京都府本部七十周年記念式典出席	一名	リーガルイヤルホテル京都
五日	神道青年近畿地区連絡協議会 石上神宮奉納参拝	二名	石上神宮
五日	令和三年度定例総会資料準備作業	二〇名	賀茂別雷神社
六日	令和三年度定例総会直前役員会開催	二〇名	ホテルグランヴィア京都
六日	令和三年度定例総会開催	五六名	ホテルグランヴィア京都
一四日	渉外委員会 第一回委員会開催	八名	FAX開催
二〇日	京都女子神職会設立五十周年記念奉告祭参列	二名	京都府神社庁
二六日	神道青年近畿地区連絡協議会第一回役員会	三名	WEB会議
二七日	執行部就任退任挨拶回り	八名	水明社各社
二七日	事業委員会 第一回委員会開催	一〇名	FAX開催
二九日	第一回執行部会開催	八名	大將軍八神社
二日	第一回役員会・第一回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一四名	賀茂別雷神社・WEB会議
二日	神道青年全国協議会神宮啓発委員会 神宮研修会参加	一名	伊勢市・WEB会議
三日	神道青年全国協議会第二回神宮啓発委員会出席	一名	伊勢市・WEB会議
一〇日	組織委員会 第一回委員会開催	二二名	FAX開催
一八日	神道青年近畿地区連絡協議会 新型コロナウイルス感染症対応に関する勉強会参加	三名	WEB会議
一八日	教化委員会 第一回委員会開催	一四名	FAX開催
二〇日	広報委員会 第一回委員会開催	一名	FAX開催
二二日	事業委員会 七五三ポスター写真撮影	六名	北野天満宮
二五日	親睦委員会 第一回委員会開催	一〇名	FAX開催
二六日	渉外委員会 第二回委員会開催	一四名	FAX開催
二七日	神道青年全国協議会 「令和三年度 夏期セミナー」出席	七名	WEB開催
二七日	事業委員会 第二回委員会開催	二名	FAX開催
三二日	第一回執行部会開催	九名	WEB開催
三二日	組織委員会 機関紙「洛声」第一三二号発行	九名	WEB会議
九月 二日	神道青年近畿地区連絡協議会 第二回役員会第一回連絡会出席	九名	WEB会議

年月日	内 容	人数	場 所
九月 六日	第二回役員会・第二回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一四名	WEB会議
一日	ヤチマタ広報キャラバン隊参加	二名	京都市内
一六日	事業委員会 七五三ポスター発行及び発送作業	五名	伏見稲荷大社
二四日	京都府神社庁主催「第五〇回交通慰霊祭」助勢	七名	京都西陣織会館
二七日	広報委員会 第二回委員会開催	一六名	FAX開催
二八日	神道青年近畿地区連絡協議会 平成二十三年台風十二号被害被災十年 物故者慰霊祭参列	二名	海南ノビノス
二九日	渉外委員会 第三回委員会開催	二名	FAX開催
二九日	親睦委員会 第二回委員会開催	九名	FAX開催
三〇日	京都府神社庁 神宮大庭廣布始奉告祭 祭典・雅楽奉仕、参列	三名	京都府神社庁神殿
十月二・四日	神道青年全国協議会「デザイン思考と情報発信を学ぶウェブ研修会」参加	三名	WEB開催
三日	第三回執行部会開催	八名	平安神宮
二日	創立七十周年記念事業 「笏つくりく伐木始祭」斎行	八名	大山祇神社
一四日	第三回役員会・第三回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一三名	大將軍八神社
二二日	神道青年近畿地区連絡協議会 第二六回全国戦歿学徒追悼祭奉仕	一名	若人の広場公園
二九日	神道青年近畿地区連絡協議会 皇室関連施設清掃奉仕参加	五名	京都大宮川洞御所
五日	組織委員会 第二回委員会開催	二二名	FAX開催
九日	事業委員会 令和四年カレンダー発行及び発送作業 教化委員会主催「七五三の集い」開催 (神職にて祈祷のみ)	一八名	伏見稲荷大社
二二日	京都府戦没英霊追悼慰霊祭並びに時局講演会参加 WCRP世界宗教者連盟助勢 創立七十周年記念事業 「笏つくりく奉製用材清祓」斎行	三名	平安神宮
二六日	第四回執行部会開催	六名	京都ガーデンパレス
三〇日	第四回役員会・第四回創立七十周年記念事業実行委員会開催	五名	国立京都国際会館
三〇日	創立七十周年記念事業	三名	大將軍八神社
八日	神道青年近畿地区連絡協議会第二回役員会出席	九名	平安神宮
八日	神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会出席	二名	平安神宮記念館ホール
一五日	渉外委員会 第四回委員会開催	二名	平安神宮
一五日		九名	平安神宮
一五日		二名	平安神宮記念館ホール
一五日		二名	平安神宮記念館ホール
一五日		九名	FAX開催

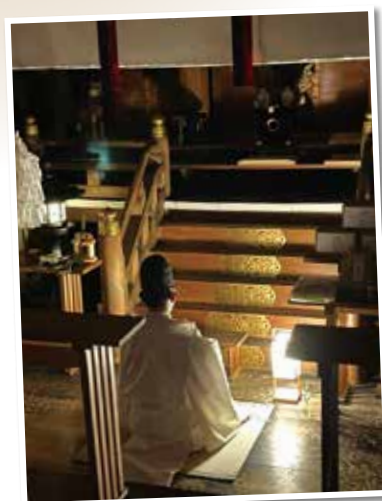
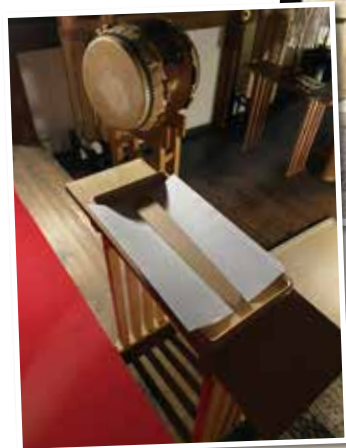
年月日	内 容	人数	場 所
十二月 六日	親睦委員会 第三回委員会開催	一四名	FAX開催
二〇日	第五回執行部会開催	九名	大將軍八神社
二〇日	第五回役員会開催	一三名	大將軍八神社
二〇日	第五回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一五名	大將軍八神社
二二日	広報委員会 広報誌『山紫水明』第一四号發送作業	六名	賀茂別雷神社
二三日	広報委員会 広報誌『山紫水明』第一四二号発行	二名	FAX開催
一月 四日	組織委員会 第三回委員会開催	一名	京都府神社庁
二四日	京都府神社庁「令和三年新年神職総会 及び助成金交付式」出席	六名	北野天満宮
二五日	渉外委員会「ヤチマタ募金活動」開催	八名	吉田神社
二二日	組織委員会 機関紙「洛声」第一三三号発行	七名	片桐建員
二月 三日	渉外委員会「ヤチマタ募金活動」開催	九名	賀茂別雷神社
八日	創立七十周年記念事業 「笏つくり」勿磨き作業」斎行	一三名	賀茂別雷神社
八日	第六回執行部会開催	一六名	賀茂別雷神社
八日	第六回役員会開催	一〇名	大將軍八神社
二四日	創立七十周年記念事業 「笏つくり」勿完成奉告祭」斎行	二〇名	大將軍八神社
二二日	創立七十周年記念式典	三五名	リーガロイヤルホテル京都
二八日	ヤチマタ広報キャラバン隊参加	一名	京都市内
三月 一日	渉外委員会 他団体交流会	四名	株式会社社俄 俄ビル
二三日	第七回執行部会開催	八名	平安神宮
二三日	第七回役員会開催	一三名	平安神宮
二二日	神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会出席	一名	京都東急ホテル
二三日	神道青年近畿地区連絡協議会地区研修会出席	九名	南丹市内
二九日	渉外委員会 第六回委員会開催	一名	WEB・FAX開催
三〇日	親睦委員会 第四回委員会開催	二名	WEB・FAX開催
二二日	教化委員会 第五回委員会開催	十名	原価レストランチーズクラス 四条烏丸
四月 一日	京都府神社庁「例祭」参列	一名	京都府神社庁
二七日	第八回執行部会開催	六名	八坂神社
二四日	第八回役員会開催	一五名	八坂神社
二四日	第八回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一名	神社本庁
二五日	神道青年全国協議会役員会出席	三名	神社本庁・WEB会議
二六日	神道青年全国協議会定例総会出席 (※北川神青協総会副議長)	三名	神社本庁・WEB会議
五月 一七日	組織委員会 第四回委員会開催	九名	八坂神社
二二日	第九回創立七十周年記念事業実行委員会開催	二名	リーガロイヤルホテル京都
二六日	神道青年近畿地区連絡協議会第五回役員会出席	三名	京都府神社庁
二七日	神道青年近畿地区連絡協議会野球大会参加	二名	鴻巣山運動公園
二九日	第九回執行部会開催	六名	WEB会議
三〇日	親睦委員会 第五回委員会開催	四名	アサヒスーパードライ
六月 三日	令和四年度活動予算審議会	一七名	平安神宮
六日	創立七十周年記念事業「創立記念奉告祭」斎行	二名	平安神宮
六日	創立七十周年記念事業「記念交流大会」開催	三名	ランドワン アサヒスーパードライ
九日	事業委員会 第五回委員会開催	六名	WEB会議
一一日	教化委員会「神社探訪」	一〇名	八坂神社
一一日	教化委員会 第七回委員会開催	六名	nana 四条河原町店
一二日	京都府神社庁「第二回鎮守の杜フェスタ」参加	三名	平安神宮
一五日	組織委員会 第五回委員会開催	二名	FAX開催
一六日	神道青年近畿地区連絡協議会 第二九回定例総会出席	一五名	京都フライングホテル
一八日	親睦委員会 第六回委員会開催	五名	馬肉酒場 轡わだち 伏見桃山店
一九日	渉外委員会 第八回委員会開催	一五名	FAX開催
二二日	第九回役員会開催	一四名	平安神宮
二三日	第十回創立七十周年記念事業実行委員会開催	一四名	平安神宮
三〇日	組織委員会 機関紙「洛声」 第二三三・二三四号発行		
三〇日	組織委員会 「令和四年度会員名簿」作製 (七月六日発行)		



創立七十周年記念事業特集
令和四年二月八日
笏磨き











創立七十周年記念事業特集
令和四年六月六日
創立記念奉告祭並びに
記念交流大会

記念交流大会一部では十八時三十分よりボウリング大会が開催された。まず私市親睦委員長からルール説明が行われ、場を和ませる為に鳥の被り物をした田中周年実行委員長の始球式が終わり、会員三十七名によるボウリング大会が始まった。ボールがピンにぶつかる軽快な音、拍手、笑い声が場内に響き旦和やかな雰囲気二ゲーム行われた。



周年に倣い平安神宮の御本殿をお借りして十六時より同宮奉職の室川会計局長が斎主を務めて斎行され、田中周年実行委員長・北川会長以下合計二十名の会員が七十年という長い年月を支えていただいた多くの諸先輩方並びに関係者に感謝の思いを馳せ、参列した。祭典終了後は小雨降りした天候に反し、清々しい思いを胸に会員同士の結束がより強まったように感じた。

記念交流大会一部では十八時三十分よりボウリング大会が開催された。まず私市親睦委員長からルール説明が行われ、場を和ませる為に鳥の被り物をした田中周年実行委員長の始球式が終わり、会員三十七名によるボウリング大会が始まった。ボールがピンにぶつかる軽快な音、拍手、笑い声が場内に響き旦和やかな雰囲気二ゲーム行われた。



去る令和四年六月六日平安神宮並びにラウンドワン河原町店並びにアサヒビシア京都にて、親睦委員会主催による京都府神道青年会創立七十周年記念事業、創立記念奉告祭並びに記念交流大会が開催された。



記念交流大会二部では親睦会会場に移動して二十時

より北川会長の挨拶、田中周年実行委員長の乾杯の発声により親睦会が始まった。

久しぶりに顔を合わせる会員や、コロナ禍により初めて会う会員分け隔てなくボウリング大会の健闘を讃え、

互いに親睦を深めている中、待ちに待った表彰式が始まった。

順番に順位が発表され、周年事業という事もあり、例年より豪華な賞品が手渡されていた。

本年は七十周年に繋げ、七の付く順位、ブービー賞など多くの会員に奮発された景品が配られ、大いに盛り上がった。そして栄えある優勝は、

男子 八坂神社 逸見 純一 会員

女子 御嶽教末廣教会 北川 真喜子 会長

優勝を勝ち取った二人には特別豪華な景品とトロフィーが渡され、それ

ぞれの優勝を掴み取った感想と挨拶を行い、会員の盛大な拍手を以って健闘が讃えられた。

熱が冷めやまぬ中、名残惜しくも閉会の時間となった。最後は有持副会長による閉会の挨拶によって大盛況と



なった記念交流大会はお開きとなった。

コロナ禍に於いて多くの事業が中止を余儀なくされているが、三年振りとなる親睦行事を通じて所謂ウイズコロナ生活が当たり前になりつつある現状で、今後の事業活動の大事な指針となったのではないだろうか。

(石清水八幡宮 親睦委員長 私市 靖)



創立七十周年記念事業特集
令和四年八月八日～九日

記念鍊成会



実践し、青年神職として研鑽を深める事を目的とする記念事業として行われた。

当日は、七時十分に京都駅に集合し、御嶽教末廣教会の方達とバスで出発した。途中休憩を二回挟み、十二時五十分頃に御嶽教木曾本宮に到着し、会員一同で先ず参拝。その後荷物を降ろし、作業着に改服後、御神火祭の準備に取り掛かり、崇敬者の思いが込められた護摩木を正方形に積み重ねていく作業を、一時間程奉仕して、その後バスに乗って御嶽山の里宮へ向かった。

御嶽神社の本殿へ行くまで長い石階段を登り正式参拝。その後、滝宮司様のご講話を頂戴し、本殿前で宮司様と会員一同にて記念撮影をさせて頂いた。

再びバスに乗って御嶽教木曾本宮へ戻ると斎場の室礼が整っており、護摩木が綺麗



去る令和四年八月八日(月)から九日(火)までの二日間に亘り、京都府神道青年会の有志九名が集い、長野県木曾郡において創立七十周年記念事業である記念鍊成会が実施された。

今回の京都府神道青年会の主題は「祈つどころ」であり、御嶽教木曾本宮様のご理解、ご協力の下、御嶽教の大祭である御神火祭に奉仕、参列等の体験をし、また御嶽教青年部の方達と互いに祈りの心を



翌九日（火）は、五時に起床し、田中周年記念事業実行委員長、室川会計局長、湯浅教化委員長の三名で清明宮での滝行に参加した。普段は滝行を行うことのない私達青年神職には貴重な機会であり、心身共に清められた気持ちとなった。



積み上げられた護摩木に点火した。またたく間に護摩木は大きな炎に包まれた。参加会員は燃え上がる火の勢いと美しさに感動し、圧倒されながらも、各々予め授かった祓串で心身を清め、斎場の炎の周りを何度も参進した。火が消えたところでもう一度本殿へ向かい参拝した。祭典終了後は、御嶽教青年部と懇親を深め語り合い、互いの交流を深められた夜となった。二十三時頃就寝し、練成会初日は無事に終了した。



に積み上げられているのを見て会員全員圧倒された。全員潔斎と食事を済ませ十八時頃よりいよいよ年に一度の大祭である御神火祭が斎行された。

奉仕会員は、渡された松明に火を点け、鳥居前から信者の方々と一緒に本殿まで参進した。本殿にて御神火祭を斎行の後、祭員、参列者の全員が斎場へと進んだ。この御神火祭の栄えある点火所役の一人に、当会からは畑中副会長が奉仕し、合図とともに

滝行を終え、一同着替えて六時に御嶽山遥拝所へ参拝の為、田の原までバスで向かった。七時十分頃に到着し、山道を登り遥拝所まで進み一同声をそろえて大祓詞を奏上した。厚い雲が晴れると御嶽山の頂上も垣間見え、霊山である御嶽山の息吹を感じ、身を引き締め、心をひとつにして、皆で祈りの心を実践できたと感じられた。続いて先の御嶽山での噴火により、尊い命を落とされた方々の御霊安らかならんことをお祈りし、参加者全員で黙祷を行った。

バスに戻り移動し、たかの湯で朝食をとった後、木曾本宮で最後の正式参拝を行った。参拝の後、全員で記念写真を撮り、御嶽教木曾本宮の皆様にお礼を申し上げ、名残惜しい中十時半に木曾本宮を後にした。途中、岐阜県の恵那山菜園で昼食をとり、十六時半頃京都駅八条口バス駐車場に到着、解散し、全ての行程が無事に終了となった。



今回御嶽教の御神火祭に奉仕、参列をさせて頂き、皆様の山岳信仰への篤い崇敬の念や、神仏習合の信仰も含む教派神道独自の祭式等がこの目で見ることで、宗派や考え方は違えども、神々に祈るという心は同じだと強く感じるこ

とができた。

今回の記念鍊成会での数々の貴重な経験は、青年会の参加会員



のそれぞれの心に深く刻まれ、正に今回の京都府神道青年会が掲げる「祈
くつどころ」の主題に相応しい記念事業となった。

(北野天満宮 湯浅 和雅)



委員会報告

渉外委員会

京都府への寄附金持参

令和四年七月六日、定例総会当日の午前、京都府・府民環境部安心・安全まちづくり推進課を、北川真喜子会長、林秀明渉外委員長、中村隆人広報委員長が訪問し、京都府神道青年会からの寄附金を贈呈させていただいた。また、贈呈式には京都府民環境部長の益田結花氏にご出席いただいた。

今後とも会員にはヤチマタキャンペーン（交通安全推進運動）募金活動にご協力の程、よろしくお願いいたします。

（八坂神社 中村 隆人）



教化委員会

神社探訪

去る令和四年六月十一日、教化委員会主催の一般教化促進事業である「神主さんと行く神社探訪」が八坂神社に於いて開催され、京都市内の学生を中心に六名と神道青年会より北川真喜子会長を始め八人が参加した。神職と共に参拝することで神社に親しみをもち、参拝する習慣を持っていたことを目的とし、今回は、新型コロナウイルスの影響から二年ぶりの開催となった。

本殿にて正式参拝後、八坂神社 東條権禰宜による本殿並びに境内の案内が行われ、普段我々神職でも見ることのできない本殿内や貴重なお話を聞かせて頂いた。その後、斎館にて座談会が行われ、当日助勢いただいた会員が奉職するそれぞれの神社の御祭神や歴史等、参加した学生より質問が多数あった。中には神社に対して深い内容に及ぶものまであった。

参加学生にとっては普段できない本殿での正式参拝や神職による境内案内、神職へ直接質問ができるなどの貴重な体験を通じ神社を身近に感じてくれたのではないだろうか。また、コロナ禍で久々に顔を合わせ、会員同士で意見交換をすることが出来た。

（石清水八幡宮 原 彰紀）



組織委員会

『洛声』発行

組織委員会では日頃の青年会の活動や近況を報告する『洛声』一三二号、一三三号、一三四号を発行いたしました。

皆様の声を機関紙という形にすることで会員間の情報共有や親睦を図り、青年会の組織力強化に繋がる紙面づくりに取り組んでいます。

些細なことでも構いませんので是非とも組織委員まで情報の提供をよろしく願います。

(松尾大社 名迫 俊彦)

第132号

第134号

第133号



近畿地区報告

野球大会



令和四年五月二十七日、近畿地区連絡協議会親睦野球大会。「今年こそはそんな熱い想いを持った青年神職達が鴻ノ巣運動公園に集まった。新型コロナウイルスが依然として猛威を振るう状況の中で、それでもと、やつとの思いで開催にこぎつけた矢先の雨予報。

一時は駄目かと思われたが、大会の前日ギリギリまで検討に検討を重ね、天に願ひ通じてか、五月とは思えぬ程の夏日と相なつた。

正直、ここまで晴れずとも、と言いたくなるような日本晴れの中、京都府神青総出で、ぬかるんだグラウンドの水抜き整備から野球大会の一日が始まった。

開会式にて、近畿地区連絡協議会西田会長の挨拶に引き続き、「皆、今日のこの日をとても楽しみにしていました！」と当会北川会長より挨拶がなされた。

勿論、私としてもこうして近畿神青が一堂に会しての野球大会は久しぶりということもあり楽しみにしていたが、同時に当番府県として、「良い大会にしよう……」と身の引き締まる思いでもあった。スタッフは受付に始まり、タイムキープから塁審、更には他府県への助っ人選手にいたるまで。西へ東へ大忙しであったが、そんな中でもやはり注目すべきは、ご存じ、我らが京都府神青野球部の活躍である。

まずは初戦、京都は第一試合Aブロックの勝者である兵庫県神青と対決。前大会優勝県としては、是が非でも決勝に駒を進めたい、負けられない一戦。試合が始まると、打つては順調に打線を繋げていた……かに見えたが、一転、守備では、進藤会員↓米山会員↓林(大道)会員と継投に苦しみ、善戦するも兵庫県神青の猛打の前に敗北を許してしまう。

後が無い二戦目、気持ちを切り替えて臨みたい、今大会三位を決める重要な試合の相手は、昨年ボウリング大会での優勝府県でもある大阪府神青。二試合目では稲本監督自らキャッチャーミットを取り、それまで捕手を務めた山名会員との名バッテリーが結成されると、勢いそのままに得点を重ね、山名会員が打つてはツーランホームラン、投げては五回完封の大活躍を見せ、五―〇と好成績で強敵大阪に勝利を収めた。

試合後には表彰式と今大会MVPの発表がなされ、京都からは稲本監督が「優秀監督」に選ばれ、大会は大きな拍手に包まれた。その後、近畿地区連絡協議会野上副会長より閉会の辞が述べられ、和やかな内に幕を閉じた。



京都は今回惜しくも三位という結果に終わったが、思い返せばどれも記録以上に記憶に残る、良い試合であったと思う。今回初参加の部員も多く、きつとこれまで以上に盛り上がり、活気づいていくことであろう京都府神青野球部。

今回は、優勝した奈良県神青を素直に称えるとして、次回以降、この雪辱を果たすべく、私自身、微力ながら勝利に貢献したいものである。目指せ、王者尊還！

(伏見稲荷大社 廣 達哉)

令和四年度定例総会並びに研修会



令和四年六月十六日、神道青年近畿地区連絡協議会令和四年度定例総会並びに研修会が京都プライトンホテルにて開催された。

定例総会に先立ち開催された研修会では、京都府神社庁副庁長であり、神道青年近畿地区連絡協議会参与でもある大原神社 林秀俊宮司様を講師に迎え、「設立三十周年を迎える神道青年近畿地区連絡協議会へ」と題し、ご講演を頂いた。

定例総会では多数の来賓にご臨席賜る中、開会の辞、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を唱和、その後、神道青年近畿地区連絡協議会西田周司会長、当番府県である当会北川真喜子会長が挨拶を述べた。引き続き、来賓の紹介がなされ神道青年全国協議会小林慶直会長よりご挨拶を賜り、西田会長（議長）による進行の許、議案第一号から第五号が審議され、満場一致にて承認された。議案に引き続き報告事項が全員に周知された。

定例総会の後、数年ぶりに懇親会が開催され、感染症対策を施した上ではあったが、各府県親交を深めることが出来た。

私が今回の定例総会で、心に残った言葉として、西田周司会長が活動方針の中で引用された「隅を照らす」に出てくる「地域コミュニティの核」という言葉がある。この言葉を聞き、神社の本来あるべき姿とは何かと考え

たところ、神社とは氏子崇敬者の皆様の人生儀礼やそれぞれの祈願の祈禱を受け、そして「おまつり」をすることで地域の活性化の原動力となる。人々が集い、つながりを結び、災害の時には救いの手を差し伸べる、そんな拠り所となる場所であると再確認することができた。又、コロナ禍になり、社頭で参拝者と接する機会が減った昨今、神社について、さらに神道についての魅力を参拝者に自分の言葉で、わかりやすく説明ができるようになるためには何が必要か。日々の社頭で神道教化につながるようなことを話せるような神職に一人一人がなることで、離れている参拝者に神社との繋がりを結ぶことができるのではないだろうか、今一度考えなおす必要があると思った。

（平安神宮 芹口 明憲）



世界平和祈願祭



神道青年近畿地区連絡協議会主催の世界平和祈願祭が令和四年七月八日(金)午前十一時より榎原神宮に於いて斎行された。祭典では斎主を西田会長が、祭員・伶人を理事役員、榎原神宮の神職が奉仕した。「浦安の舞」を榎原神宮の巫女が奉仕した。また二府四県の会員をはじめ、榎原神宮より久保田宮司様、西野権宮司様、神道青年全国協議会の小林会長、日比野理事が参列された。ロシアによるウクライナへの侵攻、北朝鮮によるミサイル実験等、平和が脅かされている状況の中、榎原奠都の詔勅にて「八紘一宇」の大御心をお示しされた神武天皇をお祀りする榎原神宮に於いて祈る事は意義深いものであった。昭和天皇の御製で神楽「浦安の舞」の歌詞でもある

「天地の 神にぞ祈る 朝なきの 海のごとくに 波たため世を」

の通り一刻も早く、世の中に平穏が訪れること祈る。

(賀茂別雷神社 有島 昌延)



勉強会「心の源泉を求めて」神道のこころ」

令和四年八月二十三日、神道青年近畿地区連絡協議会主催の勉強会「心の源泉を求めて」神道のこころ」がホテル日航奈良に於いてハイブリッ

ト形式にて開催されました。

講師は、ロック歌手の相川七瀬様、神道との出会いを自身の人生の歩みとともに、お話を賜りました。そのお話の中で相川七瀬様は音楽活動を始めてから多忙な日々をお過ごしになられ休暇が無く、無期限活動休止を発表されました。活動休止中に読まれた本をきっかけに神道は日本の故郷であると感じ、神道の魅力にふれられました。また、自身のお子様の課外学習での田植えを通じて「赤米神事」に出会われます。しかしこの「赤米神事」は現在、継承者が減少しており、「赤米神事」と子ども達を繋ぐために、「赤米神事」の継承活動を始められました。そして神道を学び、神道を子ども達に伝えるため國學院大学に入学されます。しかし、その活動をしていく中で、東日本大震災が起きます。この震災が起きてから、「また今度」という言葉にどれだけ悔いたのか、出合いは一期一会、この出来事をきっかけにご自身の音楽活動も、自分の為の音楽から、誰かの為、人の心に寄り添う歌手に、心と心の交流、ふれあいがあることとお話がありました。東日本大震災より十一年が経過し、未だ復興が未完遂の日本において、今度は新型コロナウイルスが襲来し蔓延しました。現在の日本においても、会いたい人に会えない、当たり前だったことが当たり前ではない世の中になってしまいました。この勉強会を通じて、神職としての仲執持の意味を改めて学ばせていただきました。私達は毎日、神社で御奉仕をさせていただいておりますが、神社には氏子・崇敬者を始め沢山の方々に御参拝をいただきます。初めての御参拝、毎日の御参拝、お願いごとでの御参拝、神恩感謝の御参拝、人それぞれに意味がございます。こうして神社で出会ったことが当たり前ではない世の中で、このように崇敬の御参拝をいただいているのに対し、二期一会の大切さを実感した勉強会でありました。

(賀茂別雷神社 米山 裕貴)

中央報告

夏期セミナー

去る令和四年八月三十日・三十一日の二日間にわたり、令和四年度神道青年全国協議会夏期セミナーが現地並びにオンラインでのハイブリッド型の研修形式で行われた。

全国各地より青年神職が集い、京都からは現地にて三名オンラインにて一名が参加した。

本年の研修会では『意識改革』多様化する社会に適応するために『を』を主題とした研修会であった。

第一講では、パネルディスカッション形式で、モデレーターとして、皇學館大学文学部神道学科助教である高野裕基先生、パネリストとして、太宰府天満宮 権禰宜高山博子さん・荘内神社 権禰宜石原和香子さんの三名により「女性らしさと現代の神社」と題して、女子神職をめぐる諸問題や日々変化する現代の神社における女子神職の役割や可能性、女子神職として日々の社務を行っておられるお二人のご経験について議論が行われた。SNSの活用や女性ならではの視点を用いて社務の第一線で活躍をされているお二人のお話をお聞きし、今後の社会での女子神職の可能性について改めて考える機会となった。

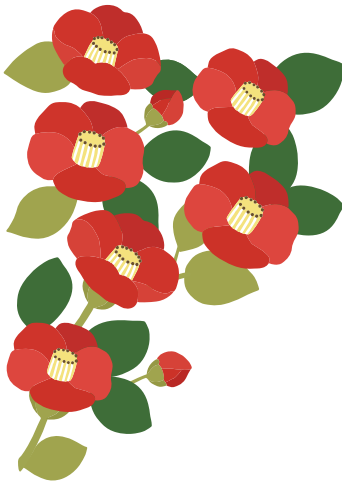
第二講では、元スターバックスコーヒージャパンCEO岩田松雄先生より「ミッション私たちの存在理由」と題して企業を発展させていく為にミッションを持つことの必要性や自分が興味のない分野への視点を向けていくことの必要性についてご講義を頂いた。奉務をしていく中で、我々神職は、神社・世の中を良くするためにミッション＝使命を

持たなければいけないということが理解できた。

第三講では神社本庁総合研究所総合研究部長浅山雅司先生より「デジタル化に伴う神社での対応を考へる」と題して多様化する現代社会における神符守札の取り扱いや、キャッシュレス化に対する神社の考え方についてご講義を頂いた。時代や社会構造の変化に応じた新たな変革が求められる中で新しいものへの利便性や利益性のみに目を向けるのではなく、トラブルに巻き込まれる危険性を理解し仕組みや対象となる法制度を明確にする必要性について理解できた。

全三講義を終え、この多様化をする時代に対応していくことが求められている中で新しい考え方を進んで学び、知識を蓄えていくことの重要性、また、今後の社務を行っていく上で、自分のミッションや神社としてのミッションを持つことの必要性を感じた。

(石清水八幡宮 原 彰紀)



令和四年度神職のための神宮研修会

令和四年九月二日(金)WEB会議システム「Zoom(ズーム)」を用いて神職研修会が開催され、主題を「斯界を担う青年神職のために」地域における神宮奉賛の要として」として全国各地より約一三三名が参加した。

先ず第一講では、神宮権禰宜・頒布課長兼奉製課長の小針孝裕先生から「神宮大麻について」と題してご講演を賜った。本年は明治天皇の尊い思召しにより、神宮大麻が全国のご家庭にお頒ちされるようになってから一五〇年の節目を迎える。改めて神宮大麻の誕生や大麻頒布の変遷について、時代背景を踏まえながら説明いただいた。

第二講では、神宮権禰宜・広報課長補佐の中西直樹先生から「神宮と式年遷宮について」と題してご講演を賜った。神宮式年遷宮の構成やその由緒について、写真を用いながら詳細に説明していただいた。

今回この研修会を受講し、神宮についての歴史や祀り、式年遷宮の意義などの知識を深めることができた。それぞれが先人達の弛み無き努力により現代まで伝えられていることを、改めて再認識する貴重な機会となった。我々神職はこれからも神宮についての理解を深め、先人達から受け継いだ神道の心を現代から次世代へ守り伝えていかなければいけないと思う。この学びを糧に、日々の神明奉仕に邁進させていただく所存である。

(平安神宮 久野 孝弘)



- ①氏名 ②生年月日 ③出身地
④奉職先 ⑤ストレスがたまったときの解消法



- ①三木 翼
②平成11年4月28日
③滋賀県大津市
④御香宮神社
⑤神社の近くにある
大中ラーメンを食べること



- ①金丸 敬平
②平成9年3月4日
③徳島県
④御香宮神社
⑤スポーツ観戦

- ①白石 直正
②平成11年8月25日
③岡山県倉敷市
④吉田神社
⑤ひたすら寝ることで
解消する



新入会員紹介

- ①伊藤 陽馬
- ②平成元年7月29日
- ③福岡県
- ④大將軍八神社



- ①上坂 理陽
- ②平成11年12月9日
- ③三重県
- ④城南宮



- ①井出 蒼
- ②平成11年11月18日
- ③長野県
- ④八坂神社
- ⑤飲みに行く



編集後記

今号は、創立七十周年記念事業の特集ページを掲載しております。

創立七十周年記念事業は、長引くコロナ禍の影響により、広く会員の皆様と共に行う事業を開催することは叶いませでしたが、今号の特集ページをご覧いただくことで、少しでも思い出を分かち合い、来る創立七十五年記念事業を取り進める際の一助となればと存じます。

また、今号作成に際しまして、ご多忙の中原稿の執筆にご協力頂きました会員の皆様、誠に有り難うございました。

次号が今期の最終号となりますが、引き続き『山紫水明』作成に励んでいきますので、何卒ご協力の程宜しくお願い致します。

(広報委員会)

